福島県男女共生センター広報誌

未来館NEWS

vol.72
2019
AUTUMN
Public relations magazine
MIRAIKAN NEWS

「男女共同参画社会」の実現を目指す

特集

ふくしま女性活躍応援会議
キラっ人さんと創る元気なふくしま
トークイベント・交流会

- ふくしま女性活躍応援会議　講演会参加者募集
- 事業レポート　お父さんといっしょに 食を考えよう。
- 福島県の○○女子！「狩猟女子」

特集　ふくしま女性活躍応援会議

「キラっ人（と）さんと創る元気なふくしま」トークイベント・交流会

福島県では、「ふくしま女性活躍応援会議」を立ち上げ、官民一体となって女性の活躍できる環境づくりを一層推進しております。今回は、令和元年7月31日に開催しました「キラっ人さんと創る元気なふくしま」をテーマに様々な分野で活躍している女性と知事とのトークイベントと交流会についてご紹介します。

出演者
- ●ゲストスピーカー　東陽電気工事株式会社　代表取締役社長　石川格子さん
  株式会社陽と人　代表取締役　小林味愛さん
  タカラ印刷株式会社　営業部長兼伝わるデザイン研究室長　佐々木まゆみさん
  福島県知事　内堀雅雄
- ●コーディネーター　NPO法人ファザーリング・ジャパン東北　代表理事　横田智史さん

Guest Speaker
石川格子さん

Guest Speaker
小林味愛さん

Guest Speaker
佐々木まゆみさん

Guest Speaker
内堀雅雄

Coordinator
横田智史さん

1 トークイベント

横田さん　私は、NPO法人ファザーリング・ジャパン東北の横田と申します。ファザーリング・ジャパンでは、男性の「育児家事参画」を中心に啓発活動をしています。男性は仕事だけじゃない。子育て・家事が一番楽しい父親業だということを皆さんに伝えています。
今日は内堀知事と3人のスピーカーにご登壇いただき、社長や部長としてどんな活躍をしているのか、また、どんな取り組みをされているのか等々、たくさんのヒントをお話しいただきます。
では最初に内堀知事から自己紹介をお願いします。

内堀知事　知事選の時、県内をまわり始めたら、お会いするのは圧倒的に女性で、その時に初めて、福島はこういった女性に支えられて来たんだと恥ずかしながら実感しました。そこで、女性の視点として感じていることは二つ。一つは「優しさ」です。県内各地で女性にお会いすると「知事、身体に気をつけて」とか「ちゃんと食事しているの?」という言葉で「無理しなくていいよ」と言われます。それを聞くと逆に「頑張ろう」と思います。もう一つは、「未来への想い」です。皆さん「子どもや孫たちのために」ということをすごく大事にされています。知事として福島県内原発の廃炉も含めて未来のために「安心して暮らせる福島」にしなければならないと思います。

石川さん　私は「優しさ」と共に「厳しさ」のある女系家系の三女、末っ子として育ちました。今年創業86周年を迎える当社は電気工事全般と送電線の保守業務を主な事業としています。約6年前、私が30歳の時に会社の代表を父親から交代しました。女性が働くことの難しさを感じつつ、大学院で経営の勉強をしながら、少しずつ会社を変えてきました。その一つがワーク・ライフ・バランスです。また、働く女性応援企業として継続して社内で様々な取り組みをしています。

小林さん　私は東京都出身で、大卒後は国家公務員として働き、4年勤めた後に民間企業に転職しました。その頃は深夜まで働くのが当たり前で、ワーク・ライフ・バランスなんて言葉はないような生活でした。前職では全国各地で地域づくりのお手伝いをしていたのですが、その時にビビッと「福島はいいな」と思い、目の前の人の役に立てる仕事が出来ないかと2017年に会社を立ち上げました。事業内容は主に農業です。例えば「見た目は悪いが、おいしい」農産物を発掘して卸したり、廃棄される農産物を使った加工企画販売などをしています。こういった事業を通して地域の役に立つだけではなく、子ども世代、その孫の世代にいい地域を残していきたいと思っています。子どもたちが育つ環境をつくりたくて、昨年、仲間と別の会社を立ち上げました。国見町を拠点に、地域の子どもたちに居心地がいい空間を提供できる事業に取り組み始めています。

佐々木さん　福島市にあるタカラ印刷の営業部長をしています。当社は今年で創業65年を迎えます。現在従業員は55名、女性従業員比率は63%、女性管理職比率57%、女性が活躍する企業と認められ、平成25年に内閣府から女性のチャレンジ賞特別部門賞をいただきました。ワーク・ライフ・バランスの推進や地域貢献に力を入れていて、企業ビジョンは「しあわせを広げる会社」です。

横田さん　石川さん、「家業を継いだきっかけ」や「女性従業員、社長として苦労していること」を、お話しください。

石川さん　両親と一番濃い時間を過ごし、2人の気持ちをよく分かっていた私が「会社を潰すくらいなら」と継ぎました。バブル崩壊で建設業が大変な時期を支えくれた社員に恩返しもしたかった。当初は取引先からも若い女性というだけで毛嫌いされましたし、社員たちは「この業界を分かっていないのに大丈夫?」と不安になったようで、わだかまりが生じた時期もあります。父との関係がうまくいかずに対立したこともあり、それを経て今うまくいっていますけども、大変だったなと感じています。

横田さん　小林さんが福島県で起業しようと思ったきっかけや、起業するにあたって苦労したこと、支えになったことがあれば教えてください。

小林さん　社会人1年目に東日本大震災があり、その時は自分の無力さを感じました。それから転職をするなどいろんなことを勉強するなかで、自分でやってみようと思い起業しました。その際、会社の事業内容は決めないままに起業しました。なぜかというと、私がやりたいことで本当に福島の役に立てるのかどうか分からない。でも、よそ者の私が急に行ったところで、教えてはくれません。「どうせ東京に戻るんだろ」と言われてしまう。であれば、一回会社を辞めて「帰るところはありませんので、ぜひ課題を教えてください」ということで、いろんな方にお話をうかがうことができました。苦労したことは、私は車の運転ができなかったので、農家さんに話を聞きに行くときに、2時間かけて歩いて行ったことと、地元の人も最初から歓迎してくれる人ばかりではなったことです。苦労しましたが、温かい人にも出会うことができました。

横田さん　佐々木さんは、どうやって「子育てと仕事を両立」したのでしょうか。

佐々木さん　40歳で出産した時、会社に育休を勧められたのですが、高齢出産が不安で一度退職しました。半年経って、会社から「育児の合間に少し仕事をしてみないか」と連絡があり、自宅で仕事を始めました。子どもが1歳くらいからは近所の子育て支援センターの預かり保育を利用し、週に1・2日アルバイト的に仕事を始め、3歳になった時に保育所に預け、パートとして復職しました。復職して5年目でパートのまま営業課長になりました。課長になる時も、「家事・育児を優先させていい」ということだったので引き受け、余裕が出てから正社員になりました。会社の制度に合わせるのではなく、会社が私の状況や希望に合わせてくれたことが大きかったと思います。それを理解して協力してくれた同僚にも感謝しています。

内堀知事　女性の「決めたらやる」強さを、3人から感じました。タカラ印刷さんは、企業としての強さを感じました。県庁の話ですが、私は知事就任の翌年に、イクボス宣言をしました。合わせてイクボス面談を徹底的にやっています。大事なのは、これから育休を取ろうかなと思っている男性職員の背中を押すこと、その直属の上司である課長たちに、プレッシャーをかけることです。就任して5年経った今、福島県庁の男性職員の育休取得率は全国トップクラスですが、たった20%です。取り組みを始めた時の5～6%から大きく伸びてはいますが、結局2割しか取っていません。なので、まだまだやるべきことはたくさんあります。

横田さん　石川さんは社長として、女性活躍、キャリアアップ、働き方改革で、どんな取り組みをされたのですか。

石川さん　女性は会社での活躍ばかりではなく、家庭でも活躍していることが多く、女性がキャリアアップのために資格を取ったり、できる業務を増やすには家族の協力が必要です。社員が会社でどう活躍をしているのかを、家族など周囲の人たちに理解してもらおうと、今年からニュースレターを月に1回発行して社員の家族に郵送しています。

横田さん　佐々木さんに質問です。女性が活躍することで会社全体にメリットがありますか?

佐々木さん　当社は、採用・教育・昇格とあらゆる場面で男女差はありません。営業部も半数以上は女性で印刷機や製本機を動かすオペレーターにも女性がたくさんいます。男女差ではなく一人ひとりが活躍できる会社を目指していて、結果として製品の品質も生産性も上がるということで、メリットは大きかったかなと思います。

横田さん　小林さん、国家公務員の経験と今取り組んでいる地域づくりの観点から女性活躍について思うことを話してもらえますか。

小林さん　世の中、社会は女性に多くを求め過ぎです。私は31歳で子どもを産んだので、それまで周りからヒソヒソと「早く産まないともう産めなくなるぞ」などと言われていました。産んだら「二人目がいないとかわいそう」と言われます。世の中は女性活躍と言いますが、「お母さんがそばにいないと子どもがかわいそう」とも言われます。周囲からいろいろと言われる社会環境にも関わらず女性に役割を求めるというのは、あまりにも酷だと思います。一方で、女性目線や女性のニーズというのは商品開発などに役立つ機会が多くあります。

横田さん　それぞれ個々人の想いとして女性活躍に必要なこと、または夢や目標などをお話しください。

石川さん　男女に関わらず誰かが活躍するには、その人を取り巻く環境すべての協力が必要です。女性には家事や育児に責任があるから、会社でさらに責任をもつのはいやだという人もいます。活躍したい人には会社としても活躍できる場を提供し、そこを目指さない人であっても「どんな目標があって、何を大切にしているのか」を尊重することが大事になってくるんじゃないかなと感じています。

小林さん　前の会社の人事評価制度では、定性評価は評価者の意向が大きく反映されるので、評価者のライフスタイル、働き方に合わせざるを得ない状況がありました。評価する側の上司は深夜まで職場にいて、土日も(職場に)いるのです。それは、仕事が忙しいという理由ばかりではなく、「家庭に居場所がないから」です。人事評価制度を見直し、働く人が会社を選べる社会にしていくことが必要なのではないかと思います。
もう一つ、男性の育休が取れる社会になってほしい。「奥さんが育休を取っているからいいんじゃない?」というのは全く違うのです。男は仕事、女は家庭ではなくて、一緒に子育ても仕事もできるような社会になっていけばいいのかなと思っています。

佐々木さん　弊社でも男性の家事とか育児参画への意識は若い世代ほど高いです。管理職世代やもう少し上の世代の意識改革が必要かもしれません。一方「女性だから」とチャレンジしない言い訳になっていることもあって、女性自身の意識改革も必要なのかなと思います。あとは女性活用、女性活躍は女性を優遇することだと言われることもありますが、そうではなくて男女の機会を均等にすること、それから労働条件を可能な限り平等にすること。性差がある環境も踏まえて、評価をきちんとすること。女性だから支援するのではなくて、一人ひとりの状況に応じた支援をすることが大切になってくるのかなと思います。家庭環境も本人の状況も、目指すことも全員違うなかで、安心して働ける環境を会社だけではなく、会社と社員が一緒になって作っていく必要があります。そこで、一番重要なのはコミュニケーションだと考えています。

横田さん　ありがとうございます。お三方のスピーチを踏まえ、働き方改革の必要性は今の時代誰もが感じていると思いますが、内堀知事に、これからの福島県でどういったことをなさっていく予定なのか、お聞かせください。

内堀知事　昭和、平成、令和と時代が移り、社会や価値観がどんどん変わっています。私たちが持っている「当たり前の基準を変えていく」ことは大事なことだと考えています。
そして、今、やりたいと思っているのは広げること。展開することです。先進的に取り組んでいる3人の話を「あの人たち特別だから」と外に置いてしまうのではなく、「自分のところでも何かできるんじゃないか」と気づいてほしい。少しずつなら必ず変えられると思います。人ごとではなくて我がこととして、一歩踏み出す。
そういう想いを知事として、県庁はもちろん、全県的に広げていく、そういう役割を果たさないといけないと思いました。

2 交流会

●キラっ人さん	東陽電気工事株式会社　代表取締役社長	石川格子さん
	株式会社陽と人　代表取締役	小林味愛さん
	タカラ印刷株式会社　営業部長兼伝わるデザイン研究室長	佐々木まゆみさん
	JAふくしま未来　福島地区本部金融共済担当部長	菅野房子さん
	応用地質株式会社　地球環境事業部環境再生エンジニアリング部副部長	井上由美さん
	株式会社トーネット　行政事業推進一課課長	佐藤恵さん
	福島県知事	内堀雅雄
	福島県男女共生センター　館長	千葉悦子
●コーディネーター	NPO法人ファザーリング・ジャパン東北　代表理事	横田智史さん

交流会では、参加者は班ごとに分かれ、実際に取り組まれていること、女性が活躍する上で課題となっていること等をキラっ人さんを囲んでお茶とお菓子を食べながら、お話いただきました。その後、情報交換や、悩みの共有など、楽しい時間になりました。

※**キラっ人(と)さん**・・・やりがいや充実感をもって働いていたり、家庭や地域でも「自分らしさ」を活かして活躍している人たちのこと。
福島県男女共生課が運営するポータルサイト「キラっ人★ふくしま」では、「キラっ人さん」をご紹介しておりますので、是非、ご覧ください。

BooKS

センター図書室の

「女性活躍」に関するオススメ本

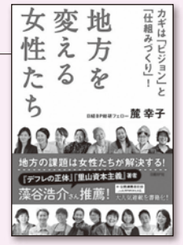
『女性の視点で見直す人材育成　だれもが働きやすい「最高の職場」をつくる』

【分類　2202/ナ】中原淳・トーマツ　イノベーション/著　ダイヤモンド社　2018年

働く男女約7400人に実施したアンケート調査を基に、女性のキャリアをスタッフ期・リーダー期・マネージャー期・ワーママ期の4つのステージに分け、それぞれの時期での職場の作り方や性差の視点で留意すべき事項をデータやイラストと共に分かり易く解説しています。職場の少数派の立場から課題を見直すことが、企業全体の労働環境や働き方の改善につながる第一歩だと気づかされます。

『地方を変える女性たち　カギは「ビジョン」と「仕組みづくり」!』

【分類4208/ワ】麓幸子/著　日経BP社　2018年



本書は、閉鎖的な地方から、産業・地域課題・まちづくりなど様々な分野で地方に変革を起こし活躍している17人の女性リーダーへのインタビューをまとめたものです。「農家の嫁」から女性農業従事者の地位と意識を押し上げる活動をした人、引きこもりの若者支援をまちづくりにつなげた人など、地方が抱える課題に女性ならではの発想視点や今までの慣例にしばられることなく枠組みを乗り越え、次世代の為にと行動するのためにと活動してきた彼女たちの力強い意志がひしひしと伝わってくる一冊です。

【問い合わせ】　福島県男女共生センター図書室　電話:0243-23-8308
開館時間　9時～20時(休館日前日は17時)

福島県からのお知らせ

ふくしま女性活躍応援会議

講演会

「経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス」

参加者募集

女性活躍推進や働き方改革、男性の家事・育児・介護への参画等の取組を促進するためにはトップの意識が重要であることから、企業・団体の経営者・管理者等を対象に講演会を開催します。

●開催日時

11月29日(金) 13時00分～15時30分

●開催場所

ビッグパレットふくしま（郡山市南2丁目52）
3階　中会議室A+B

●参加対象者

企業・団体の経営者・管理者、中小企業の人事労務担当者等(250名程度)

●開催内容

表彰式:13時00分～13時50分
講演会:14時00分～15時30分
※「福島県ワーク・ライフ・バランス大賞表彰式」との合同イベントとなります。

講師

株式会社佐々木常夫マネージメント・リサーチ
代表取締役　**佐々木常夫** 氏

【申し込み・問い合わせ】　福島県男女共生センター　事業課　電話:0243-23-8304　FAX:0243-23-8314　E-mail:mirai@f-miraikan.or.jp

福島県男女共生センター

相談室のご案内

相談＆予約専用電話
☎ 0243-23-8320

相談無料・秘密厳守
一般相談の面接、法律相談、カウンセリングは事前に予約が必要です。

一般相談

家族・夫婦・友人のこと、学校・職場・地域での悩み、女性・男性・LGBTの生きづらさについての相談をお受けします。また、配偶者・恋人からの暴力(ＤＶ)の相談もお受けしています。

●相談日・時間(電話・面接/面接は要予約)
火・木～日曜日　9時～12時、13時～16時
水曜日 13時～17時、18時～20時

男性相談員による相談
●相談日・時間(電話のみ)
火曜日　17時～20時
★休館日及び休館日前日を除きます。

福島県男女共生センター相談室
二本松市郭内一丁目196-1
※相談日・時間は変更になるときもあります。
※月曜日は休館日のため相談室もお休みです。
https://www.f-miraikan.or.jp

法律相談

DV、離婚など夫婦、男女間に関わる問題、親権、相続、金銭問題など法律に関わる困った問題が起きたとき、弁護士が相談をお受けします。

●相談日・時間(面接のみ/要予約)
第3水曜日　13時30分～15時30分
★一人30分間となります。
★原則として一人3回まで法律相談を受けられます。

女性による女性のためのカウンセリング

傷ついた経験やショックな出来事を思い出して落ち込んでしまうなど、生きにくさを感じている女性のための相談です。
女性の臨床心理士がカウンセリングをお受けします。

●相談日・時間(面接のみ/要予約)
第1金曜日　10時～11時
第3金曜日　13時30分～14時30分
★一人1時間となります。
★原則として一人4回までカウンセリングを受けられます。

事業レポート

お父さんといっしょに　食を考えよう。

令和元年7月20日(土) 10時～13時

共催:特定非営利活動法人全国女性会館協議会、日本テトラパック株式会社

メニュー
☆ちくわのきゅうりとソーセージつめ
☆ツナとコーン入りかんたんお好み焼き
☆夏野菜と完熟トマトマヨネーズ
☆おにぎり
※レシピはセンターHPで公開中です

夏休みに入ってすぐの土曜日、父と子の料理教室「お父さんといっしょに　食を考えよう。」を開催しました。

この料理教室は、働くお母さんを応援するため、お父さんと子どもが食事づくりにかかわることができるようにと開催したものです。当日は、お父さんと小学1～3年生のみなさん16名が参加し、楽しく「おうちごはん」を作りました。

講師の山際博美さんからは、おうちで手際よくごはんをつくるためのコツや、切り方や盛り付け、食器の選び方を工夫することで、おいしそうに見えることなどを教わりました。

おにぎりづくりでは、初めに、普段家でやっているようににぎってみたあと、講師の先生に上手なにぎり方を教わりました。

参加した皆さんの感想

お父さん
◆子どもと一緒に料理から後片付けまでをすることで、親子の会話が増えて楽しかったです。
◆子どもが料理に興味を持ち、自主性が高まるような内容だったのでよかったです。
◆普段ほとんど料理をしないので、改めて料理の大変さを感じ、子どもと母親の大変さについて話ができました。

お子さん
♪作ったことのない料理を作って食べたら、とてもおいしかったです。もっといろんな料理を作ってみたいです。
♪毎日料理を作るお母さんの大変な気持ちがわかりました。
♪つくること、あらうことが楽しかったです。

福島県の

○○女子！

前回の農業女子に続いて、今回は「狩猟女子」の鈴木淳子さんにお話を伺いました。

鈴木さんは、福島市クレー射撃場で9月に行われた全国大会へ向け、練習をしていらっしゃいました。射撃場には練習や見学に来ている女性もいらっしゃいました。

（取材は8月上旬に行いました。）

鈴木淳子さん

「狩猟女子」 ―― 鈴木淳子さん

○「狩猟（※1）」をはじめたきっかけ

狩猟を行っていた友人と一緒に狩猟に行くために、猟銃・空気銃所持許可証と第1種銃猟及びなわ猟の狩猟免許を平成29年3月に取得しました。銃は誰でも持てるわけではありません。所持許可が必要となり、狩猟を行うには狩猟免許が必要です。（※2）

狩猟免許を取得した翌年の冬に協猟（協同で狩猟をすること）に参加し、初めて狩猟に行きました。狩猟はすごい迫力でしたし、他の狩猟者もいますので、命を預ける感じで、緊張しました。安全に狩猟をするために、信用が大事ですし、ルールやマナー、モラルは絶対に守らなければいけません。

年々、いのしし等による農作物への被害は増えていますが、狩猟者の減少や高齢化により駆除する人が足りなくなっています。自分はまだ経験は少ないですが、農作物を荒らすいのしし等の駆除を通して、少しでも地域貢献になればよいと思います。

福島県でも女性の狩猟者は増えていると聞きますが、交流する機会も少なく、もっと女性が増えるとよいと思います。

○射撃の全国大会へ出場

先日、県猟友会の支部対抗安全狩猟射撃大会に出場し、女子の部で優勝。全国大会に出場することになりました。今年は、一般社団法人大日本猟友会が法人設立80周年の記念大会として、初めて女性の部ができました。種目は4種あり、散弾銃を用いて、空中などを動くクレーと呼ばれる素焼きの皿を撃ち、合計100点満点とし、点数を競います。

射撃大会は、狩猟事故、違反防止及び猟銃等の取り扱いマナーの向上と安全な保持管理を万全に期することを目的としています。しかし、残念なことに、狩猟中の事故は起きてしまっています。安全に狩猟を行うために、射撃技術だけではなく、猟銃の安全な取扱いを行い、試合へ向けて集中力の維持が保てるよう練習に取り組んでいます。今回の全国大会出場を友人や家族が自分以上に喜んでくれました。全力で頑張ります。

○もう一つ取り組んでいること

狩猟の他に、柔道の指導員、審判員として活動しています。高校生時代はインターハイに出場しました。競技人口の増加を目的とし、女性部の一員として、子供達の育成の手助けをしています。少ない女性審判員として、選手と同じ畳に立つことはとても勇気が必要ですが、鈴木さんがやっているなら私もやってみたいと思えるような存在になりたいと思います。

※1　狩猟期間内（福島県では11月15日から翌年の2月15日まで）において鳥獣保護法により捕獲等が禁止されている場所以外において法定猟具を使用し狩猟鳥獣（鳥類のヒナや卵を除く。）の捕獲等を行うことができるという制度。

※2　猟銃・空気銃所持許可証は、住所地の警察署に申請を行い、銃の所持許可を受ける必要がある。また、狩猟免許は、猟具の種類に応じて4種類の免許（網猟、なわ猟、第1種銃猟（装薬銃・空気銃）、第2種銃猟（空気銃のみ））があり、免許の種類ごとに知識・適性・技能試験に合格すると、狩猟免許を取得でき、3年間有効。その後、都道府県に狩猟者登録を行い、狩猟に出られる。

（福島県ホームページより）

福島県男女共生センター広報誌
未来館NEWS
2019 AUTUMN vol.72

当センターに対するご意見・ご質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。

（公財）福島県青少年育成・男女共生推進機構
福島県男女共生センター（女と男の未来館）
〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
TEL：0243-23-8301（代） FAX：0243-23-8312
MAIL：mirai@f-miraikan.or.jp
https://www.f-miraikan.or.jp/

表紙

あづま総合運動公園のイチョウ並木。116本のイチョウが520mにわたり、植えられています。11月上旬が見頃で、その時期にライトアップも予定されています。